

# 霞城

第20普通科連隊広報紙 発行所/山形県防衛協会

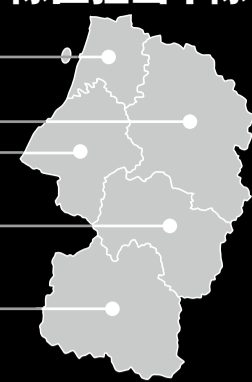
第20普通科連隊ホームページアドレス  
https://www.mod.go.jp/gsd/nea/6d/unit\_hp/20i\_hp/index.html

第20普通科連隊 検索

# KAJYŌ

- 第2中隊
- 第1中隊
- 重迫撃砲中隊
- 第3中隊
- 第4中隊

隊区担当中隊



No.707



## 20連隊万全な準備整える 「令和3年度第2次師団 訓練検閲練成訓練」を実施

作戦会議

訓練の総仕上げ  
「訓練評価・集成射撃・総合訓練」  
を実施

新隊員による陣地攻撃

## Contents

### 2ページ

- 20連隊万全な準備整える  
「令和3年度第2次師団訓練検閲練成訓練」を実施

### 3ページ

- 訓練の総仕上げ  
「訓練評価・集成射撃・総合訓練」を実施
- 大高根青年修養道場記念碑建立51周年  
「大高根青年修養道場祭」に協力

### 4ページ

- 上下左右の連携  
「令和3年度連隊指揮所演習(計画策定)」を実施
- 「第141期陸曹候補生選抜2次試験」を実施
- 各種表彰
- 定年退官者紹介
- 10月行事予定

2021  
September  
9



軽火器区隊が戦闘訓練

## 訓練評価



120M迫撃砲射撃準備

# 訓練の総仕上げ「訓練評価・集成射撃・総合訓練」を実施



行進規律を厳守し35kmを完歩



隊容検査

## 総合訓練



正確に照準を合わせる



女性自衛官も奮闘!!



班で協力して射撃準備

新隊員教育隊（教育隊長：浅野2佐）は、9月1日（水）2日（木）の両日、神町駐屯地において訓練評価を、4日（土）5日（日）には王城寺原演習場（宮城県）で集成射撃を、9日（木）10日（金）は東・西訓練場において総合訓練（35km徒步行進訓練及び陣地攻撃）を実施した。

訓練評価では、軽火器区隊が機関銃の分解結合を、迫撃砲区隊が砲手試験を実施したほか、両区隊ともに戦闘訓練を行い、新隊員たちはこれまでの訓練の成果を発揮するため一生懸命に取り組んでいた。

また集成射撃において、軽火器区隊は機関銃の実弾射撃及び個人携帯

## 集成射撃



緊張しながらも確実な動作で射撃



狙いを定める新隊員

訓練評価では、軽火器区隊が機関銃の分解結合を、迫撃砲区隊が砲手試験を実施したほか、両区隊ともに戦闘訓練を行い、新隊員たちはこれまでの訓練の成果を発揮するため一生懸命に取り組んでいた。

また集成射撃において、軽火器区隊は機関銃の実弾射撃及び個人携帯

対戦車弾（LAM）の縮射撃射撃を、迫撃砲区隊はそれぞれ81M迫撃砲及び120M迫撃砲の実弾射撃を行った。射撃間、激しい雨に見舞われる悪天候だったが、最後まで集中力を継続し、区隊長の指揮の下、確実な動作で射撃を行った。新隊員たちは「初めて小銃以外の射撃訓練に参加して、それぞれの火器火砲の実弾を取り扱う緊張感を体験できた。事前訓練を思い出しながら落ち着いて射撃を行うことが出来た。」と述べていた。

さらに総合訓練では、神町駐屯地内（東・西訓練場）を周回する経路で35km徒步行進訓練を行い、引き続き、軽火器区隊は偵察行動から陣地攻撃、逆襲対処までの一連の行動を、迫撃砲区隊は陣地進入から射撃、陣地変換までの一連の行動を実施した。

新隊員たちは初めての夜間行進訓練で、疲労と睡魔に襲われる状況であったが互いに声を掛け、励まし合いながら全員が完歩した。その後の戦闘行動においても、ひとり一人が「必ず任務を達成する」という強い気持ちで一心不乱に取り組んでおり、誰一人欠けることなく任務を完了し、普通科隊員としての技能を修得した。



木村莞爾様より当時の話しを伺う



記念撮影

参拝後、木村莞爾様よりご挨拶があり、大高根青年修養道場にまつわる話しを聞き、改めて大高根演習場の歴史と伝統及び重要性を認識した。

記念祭当日は、高木酒造株式会社代表取締役会長ご婦人 高木紀子様、製造部 葉山啓一様、総務室長 阿部早喜子様、株式会社「石駒」取締役会長 松田勝彦様、元県議会議員 木村莞爾様が参列され、連隊からは連隊長（荒木1佐）が参列し、参拝を行った。

9月1日（水）、大高根演習場（村山市）において、大高根青年修養道場記念碑建立51周年「大高根青年修養道場祭」に協力した。

「練磨の道場」として数々の訓練を行ってきた大高根演習場は、大正9年から先の大戦の終戦まで、主として満州開拓者を育成する県立自治講習所の実習農場（大高根農場）であった。その役割は農業条件最悪の高冷地での可能性の実証であり、農業技術の普及と食糧増産を図るため設立され、併せて精神修養を深めようとする高い農業青年達が集い大高根青年修養道場が併設された跡地である。



大高根青年修養道場記念碑

# 大高根青年修養道場祭に協力

大高根青年修養道場記念碑建立51周年

20連隊万全な準備を整える

# 「令和3年度第2次師団訓練検閲練成訓練」を実施



行進後、速やかに防衛準備を実施



中距離多目的誘導弾の運用



ドローンを運用して情報収集



FOによる観測



連隊長現地指導



COP離脱



対機甲戦闘を実施

## 夜間も整齊と行進



9月4日(土)から9日(木)までの間、王城寺原演習場(宮城県)において「令和3年度第2次師団訓練検閲練成訓練」を実施した。本練成訓練は、10月18日(月)から26日(火)に予定されている令和3年度第2次師団訓練検閲の課目「陣地防御」に向けた重要な訓練で、徒步行進から陣地防御における一連の行動について練成を行った。

各中隊はいずれも状況開始後、真夜中から翌早朝にかけて時折雨に打たれつつ演習場内約20kmの徒步行進を実施した。各隊員は行進計画に基づき速度を維持し、隊形の保持、無声指揮に努めるとともに、企図の秘匿、痕跡の除去を図りつつ、起伏の激しい経路を整齊と行進、全隊員が良好な状態で完歩し速やかに防衛準備に着手した。

演習場内は降雨の影響により所々泥濘化しており、非常に厳しい状況であったが、隊員たちは堅固な陣地を構築するため掩蓋材を適切に使用する等、精神的に作業を進め、予定されていた時期までに工事を概成、事後、陣地の補強・強化に努めるとともに、防御戦闘に備えた。引き続き、第一線陣地の戦闘から縦深陣地の戦闘まで、一連の行動を戦闘予行形式で実施した。戦闘予行では連隊本部の一部及び各中隊の支援人員を運用し、実員を用いて戦況を現示、より実戦に近い環境で各種状況を付与した。特に衛星対処、化学攻撃対処、航空攻撃対処、警戒自衛戦闘、捕虜の取り扱い、第一線救護等の状況が付与されたが、各隊員は基本基礎動作の徹底を図るとともに、各々の役割を認識及び実行することで適切に対処することができた。また一連の防御戦闘間、情報と火力と障害の連携を密接に行い、対機甲戦闘や、敵の夜間攻撃及び陣地攻撃等、それぞれの状況における対処要領を確認し、各種戦術行動の練度及び指揮幕僚活動の能力向上の質を得ることが出来た。

帰隊後は、中隊ごとにAARを実施し、本訓練の成果について分析及び評価を行い、教訓事項の認識を統一し、師団訓練検閲に向け万全を期した。連隊は、荒木連隊長要望事項である「凡事徹底」を實踐し、「唯一無二」の第20普通科連隊として令和3年度第2次師団訓練検閲で任務を完遂するべく、日々訓練に励んで行く。



化学攻撃を適切に処置し、指揮所で業務を続行!



除染所における迅速な対処

# 「令和3年度 連隊指揮所演習(計画策定)」を実施



作戦会議

## 上下左右の連携

8月23日(月)から27日(金)までの間、駐屯地体育館において「令和3年度連隊指揮所演習(計画策定)」が、指揮・幕僚活動及び諸職種協同の練度向上を図ることを目的に実施された。

本演習には、配属部隊として第6後方支援連隊第1普通科直接支援中隊及び第6施設大隊第1中隊が参加したほか、東北方面特科連隊第3大隊及び第6高射特科大隊がVTC(リモート)を用いて参加した。

演習間、厳しい酷暑が続く環境だったが、増

強普通科連隊として適切な業務統制の下、積極的に各部隊と調整しつつ、各職種部隊の意見を取り入れながら分析・見積りを深化させ計画を作成した。演習参加者は師団から付与される想定に基づき、任務分析・幕僚見積り・防衛構想策定・全般作戦計画の策定まで一連の幕僚活動を実施し、任務達成のため実効性のある計画を作成するとともに、幕僚活動能力及び諸職種協同能力を向上することが出来た。



連隊長が現地指導



実員を用いた戦闘予行

## 10月行事予定

18日(月)～26日(火)

・令和3年度第2次師団訓練検閲受閲

## 各種表彰

### 【東部方面総監より褒賞状】

(第32回オリンピック競技大会において第3東京会場整理支援群海の森地区会場整理支援隊員として)

・本部管理中隊 2尉 阿部 剛之

### 【8月警衛勤務優秀らっぱ手】

- ・重迫撃砲中隊 士長 八巻 一徳 (11日上番)
- ・第1中隊 3曹 藤田 淳 (12日上番)
- ・第4中隊 士長 富岡 和馬 (13日上番)
- ・第3中隊 士長 高橋 京史 (16日上番)
- ・重迫撃砲中隊 1士 橋本 未句 (17日上番)
- ・本部管理中隊 3曹 後藤 政樹 (18日上番)
- ・第2中隊 士長 鈴木 寛明 (19日上番)



## 定年退官者紹介

永年の勤務、お疲れ様でした。

- ・第2中隊
- ・鶴巻 真也 准尉
- ・9月3日付
- ・東根市在住

8月30日(月)から9月1日(水)までの間、「第141期陸曹候補生選抜2次試験」を実施した。本試験は1次試験(筆記試験)に合格した35名の隊員が参加した。

8月30日は体力検定として共通体力検定(3000m走・腕立て伏せ・腹筋)及び戦技等に直結する体力検定(重量物の卸下、運搬及び積載・短距離疾走・超壕の計6種目)が実施された。受験者たちは日々の練成の成果を十分に発揮し、「陸曹候補生の指定」を目指し、全力で取り組んでいた。

31日の術科試験(停止間及び行進間における分隊長動作)では、受験者が試験官に対して所属中隊や氏階級を元気よく報告する姿が印象的であった。また、その後受験者は分隊長になりきり、銃の保持や腕の振りなどそれぞれの着眼点をハキハキとした聞き取りやすい声で分隊長に示し、「縦隊行進」「横隊行進」「斜行進」などを駆使して全員が制限時間内に試験を終えた。

試験最終日となる9月1日には口述試験が実施され、会場となった連隊教場は緊張間漂う厳正な雰囲気であったが、受験者は面接官からの質問に対して、自信溢れる声で解答



澁刺と分隊を指揮

検定官が厳正に審査

し、陸曹になるための決意を伝えていた。

本試験に合格し陸曹候補生の指定を受けた隊員は令和4年7月から第2陸曹教育隊(仙台)で実施される第141期陸曹候補生課程に入校し、初級陸曹に必要な資質及び知識・技能を修得する予定である。



## 術科試験

本部管理中隊長が受験者を激励

## 「第141期 陸曹候補生選抜 2次試験」を実施



20kgの重量物を運搬

## 体力検定



勢いよく出走(3000m走)